



# 大気中の粒子から 環境を解き明かす

Nashidai Researchers #44

生命環境学部 環境科学科 准教授

**松本 潔さん**  
Matsumoto, Kiyoshi

学歴 名古屋大学大学院理学研究科大気水圏科学専攻博士  
後期課程修了

経歴 名古屋大学大学院理学研究科大気水圏科学専攻博士後期課程修了 >> 日本学術振興会特別研究員 >>  
科学技術振興事業団研究員 >> 神奈川大学工学部特別助手 >> 結婚 >> 第一子誕生 >> 神奈川大学工学部特別助教 >> 山梨大学教育人間科学部准教授 >> 第二子誕生 >> 現職

## 私の研究内容

### 大気エアロゾルの性状と動態に関する研究

大気中には固体や液体の粒子が無数に浮遊しています。これら大気エアロゾルと、その前駆気体に関する研究を行なっています。エアロゾルを構成する化学成分、前駆気体も含めた発生・反応・除去といった大気中の動態と時空間分布、そして気候や気象、生態系との相互作用、といったことを解き明かす研究です。



癒しを感じるもの

### 街中にあるただの公園。

昔は、休日といえば競馬場、競輪場、野球場だったんですが、長女が生きてからは、一緒に公園に行くことが多くなりました。青空の下、そよ風に吹かれながら子供たちの遊ぶ姿を見ている時が一番の癒しです。

私の研究の特徴

### 膨大なサンプル、恐怖のコンタミ、一番楽しいデータ解析

フィールドで得られたサンプルから多くの情報を得ることができますので、様々なフィールドで継続的なサンプリングをしています。膨大な量のサンプルを化学分析に供しますが、分析対象成分によっては、コンタミネーションを恐れるあまり作業がとても神経質なものになります。最後はデータを解析しますが、ここで自分のアイディアが証明されていくのが楽しいですね。

研究者になったきっかけ

### 何もかも自由だった大学院生時代

大学院時代に私が所属していた研究室には自由な気風があり、私は研究テーマの設定も観測・実験も、自分のアイディアを基に自由に進めることができました。自分のアイディアが、自分で苦労・工夫して取ったデータを基に証明されていき、およそ2年後には論文という形になったのが嬉しくて楽しくて。そのまま研究室に残ってしまいました。

学生へのメッセージ

最近は、何の役に立つか、という視点で研究を語ることが多いです。学生の皆さんも、この勉強は何の役に立つか、と考えることが多いのではないかでしょうか。勿論そういう視点も重要です。でも、そんなことは脇に置いて、自分が面白いと思ったこと、不思議だと思ったことを、突き詰めて調べてみてはどうでしょうか。皆さんの中にもいませんか？子供のころ、恐竜が大好きで、恐竜博士になりたかった人。それが何の役に立つかなんて、考えませんでしたよね。

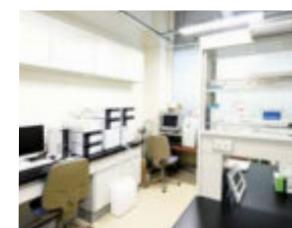
### 私のモットー

#### データを過信しない

フィールド観測で得られたデータは自然の一コマを切り取ったに過ぎません。勿論データは重要であり、それを基に大気中で何が起こっているのかを議論するのですが、断片的なデータは、時には議論をミスリードします。その可能性に常に留意するよう心掛けています。

### 私にとってのワークライフバランス

普段帰りが遅いこともあります。週末は極力仕事を入れないよう心がけています。たまたま家事、子供の相手、などなど、どれも平日あまりできませんので。まあ、そうはいかないことが多いんですけどね。



### ここが私の研究室

様々なフィールドでサンプルを取りますが、一番使っているフィールドは、実は大学の屋上です。試験的なサンプリングから長期にわたる継続的なサンプリングまで、やはり近さは時間や金銭面において最大の利点です。遠くに行かずとも屋上での観測からわかることがたくさんあります。





# 現場と学術をつなぐ 生態系の健康に挑む

Nashidai Researchers #45

生命環境学部 地域食物科学科 准教授

**矢野 美紀**さん  
Yano, Miki

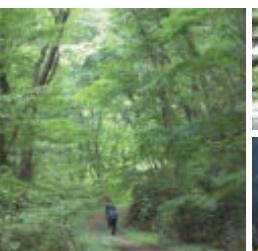
学歴 東京大学農学部農業生物学科卒業、同大学大学院農学生命科学研究科修士・博士課程修了。  
取得学位：博士（農学）

経歴 大学卒業 >> 大学院修士課程修了 >> 大学院博士課程修了・学位取得 >> 東京大学大学院農学生命科学研究科農学特定研究員 >> 同研究科学術研究支援員 >> 結婚>> 同研究科助手 >> 同研究科助教 >> 現職(>>離婚)

## 私の研究内容

### 人と作物が健康に生きられる環境・生態系を明らかにする

作物がその力を最大限に発揮できる環境・生態系を明らかにする研究です。そのような生態系を作ることで、農薬や肥料を使用しなくても作物は健康に育つと考えています。生命や生態系の仕組みを理解し、生態系の健康を目指す研究とも言えると思います。



### 癒しを感じるもの

#### 植物、神社、音楽

疲れたときや何か物事をゆっくり深く考えたいときは、山林や公園などの植物の多い場所を歩いたり、神社に行きます。校内でもたまに草木の多いところをふらふら歩いています。音楽はまた違った気分転換ができます。

## 私の研究の特徴

## 研究者になったきっかけ

## 現場と学術、分野と分野をつなぐ研究

生命や生態系の仕組みを理解するためには、生物や環境の全体を見ることが重要ですが、研究分野が細分化され、分野間に研究されていない領域もあり、それが難しくなっています。一方、現場の職人さん達は、直感的に自然の仕組みを理解しています。現場と学術、分野と分野をつなぐことで、生命・生態系の統一的な理解に貢献できたらと願っています。

## 法則を見出す楽しさと人の役に立つ喜び

読解力が乏しく、いわゆる教科書から学ぶ勉強が苦手でしたが、心のどこかに「沢山のことを理解したい」「人の役に立ちたい」という気持ちがあり、何となく大学院に進学していました。研究をするうちに、自然の形や現象を観察してそこに法則を見出すことの楽しさに気づき、社会に貢献できる喜びもあるため、研究者になりました。結果として読解力もついてきました。

自分の個性や能力を存分に発揮でき、  
なおかつ人の役に立つ道を見つけてください。  
必ず見つかると思います。やりたいことやるべきことが一致することで、常に充実した時間を過ごせれば、  
苦手なことや困難なことも克服する力が湧くと思います。

## 学生へのメッセージ

## 私のモットー

他者の立場に立って考える  
他者の立場に立って考えることができるだけで多くの問題が解決できると思います。しかしそれができずに後悔の毎日です。研究においては、他の生物を人に置き換えて考えることが役に立っていると思います。

## 私にとってのワークライフバランス

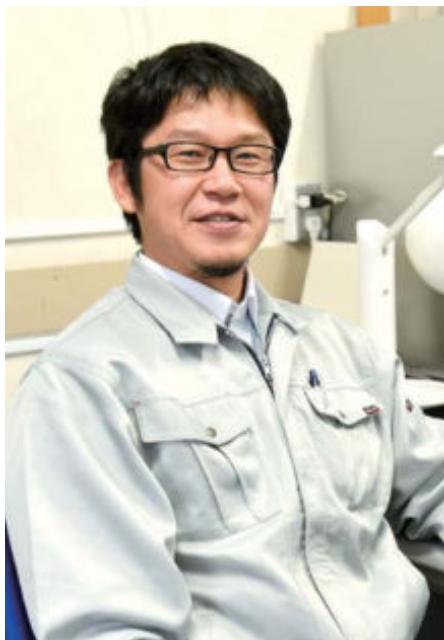
仕事もその他の活動も、自分の活動全てが、自分を含めた人々の真の健康と幸福に繋がるようにする、つまり、やるべきこととやりたいことを一致させることで常に心身を充実させることを目標にしています(ほど遠いですが)。のために今努力していることは、ちょっと抽象的な表現になりますが、自分の心と体と生活空間をなるべく健全にするということです。



## ここが私の研究室

これまで土壤などの分析による実証研究を行っていたのですが、ちょうど今、分野横断的な理論的研究を行いたいと考えているところです。自分に合った研究スタイルを模索しています。





# 「ものづくり」と 「ひとつづくり」に携わる

Nashidai Researchers #46

工学部 附属ものづくり教育実践センター  
准教授

**孕石 泰丈**  
さん  
Haramiishi, Yasutake

学歴 名古屋大学工学部材料機能工学科卒業、名古屋大学  
大学院工学研究科材料機能工学専攻博士課程前期  
課程修了、名古屋大学大学院工学研究科材料機能工  
学専攻博士課程後期課程修了(取得学位博士(工学))

経歴 大学卒業 >> 博士課程前期課程修了 >> 博士課程後期  
課程修了 >> 名古屋大学大学院工学研究科マテリアル  
理工学専攻研究員 >> 結婚 >> 山梨大学大学院医学  
工学総合研究部 / 工学部機械システム工学科助教 >>  
第一子誕生 >> 第二子誕生 >> 第三子誕生 >>(現職)

## 私の研究内容

### 「ものづくり」に関わる研究

「ものづくり」に関わることを研究対象としています。具体的には金属の加工や、加工したものの計測・評価、あるいは加工するための道具の開発・評価などです。工学部附属ものづくり教育実践センターに所属したこともあり、最近は技術者教育=ひとつづくりにも興味があります。



### 癒しを感じるもの

#### DIY

休みの日は、自宅のウッドデッキやウッドフェンスをDIYで作ったりしています。木工だけではなく穴掘りしたり、コンクリートを練ったり、素人なので失敗もよくありますが、工夫しながら作っています。

## 私の研究の 特徴

## 研究者になった きっかけ

## 学生への メッセージ

## 私のモットー

研究の特徴と同じく、どんなことでも興味があれば、とにかくやってみることを心がけています。Webでいろいろ調べてからやってみると、どんなことでも意外とうまくできます。最近は鉄火やキュウリ、納豆の細巻を初めて作りました。

## とにかくやってみよう！

研究においては、先行研究などを調べてから取り組むべきかもしれません、私はとにかく、やることはやってみようというスタンスです。下手な知識からの判断で、できないと思ってしまうと、それ以上の発展はありません。今、教科書に載っている常識が100年後にも常識かどうかは、わかりません。

## 院生の時に声をかけられて。

大学院修士の時に指導をして下さっていた准教授の先生に、博士に進学してはどうかと言われたことがきっかけです。それまでは特許事務所(弁理士)など、様々な「最新技術」に触れられ、独立できる職業に興味がありました。研究者も最新技術や自分の研究室=独立と言ふことは、似ています。

「とりあえずやってみよう！」と興味があることはなんでもチャレンジしてください。  
「ものづくり」に興味があれば、ぜひセンターを訪ねてみてください。待っています！

## 私にとってのワークライフバランス

仕事は家に持ち帰らないように心掛けています。たまに持つて帰ることがありますが、結局できない場合が多いような、平日は遅い帰宅になりがちなので、休日にはOFFモードになるようにしています。



## ここが私のセンター

当センターは工学部の実習授業などの教育を通して、ものづくり能力を備えた人材育成に貢献し、また研究支援は工学部のみならず、教育学部・医学部・生命環境学部の先生・学生からも実験装置などの製作依頼を受け、技術的な支援を行っています。





# 成長につながる就職活動支援を

Nashidai Researchers #47

キャリアセンター 教授

**原 瑞穂**さん  
Hara, Mizuho

学歴 日本女子大学文学部国文学科卒業、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程生涯発達専攻カウンセリングコース修了（取得学位：カウンセリング修士）。

経歴 香川県産>>大学卒業（東京）>>東京都立中学校教師>>結婚（岡山）>>長男誕生（岡山）>>長女誕生（千葉）>>夫の転機で各地>>民間（神戸）の店舗管理・人事企画等の業務を経て、公的機関（神戸・大阪）・大学（神戸・大阪）でキャリア・コンサルタントの仕事に従事>>大学院修了（東京）>>公的機関（大阪・東京）、大学等（神戸・東京）で学生支援やキャリア・コンサルティングに従事>>現職

## 私の研究内容

### 大学生の就職活動ストレスを考える

就職は青年期の発達課題の一つですが、就職活動に向かう学生の精神的健康はともすれば阻害されがちです。学生が意欲的に就職活動を継続し、結果として学生の成長にするためには何が必要なのか、就職活動ストレスの要因の側面から探索しています。また、最近はOPPA論を利用したキャリア形成科目の授業評価の検討にも挑戦しています。



### 癒しを感じるもの

#### 植物くんたちを眺めながらワインを飲む時間

グリーンに話しかけながら水やりをしています。ついつい増えてしまうのでジャングルにならないように気をつけています。植物を眺めながらワインと音楽でリラックスしています。

## 私の研究の特徴

## 研究者になったきっかけ

## 学生へのメッセージ

## 就職活動ストレスにおける「認知」に着目！

就職活動に対する学生の認知に着目し、就職活動へのストレスが増幅するメカニズムについて明らかにしたいと思っています。頑張ろうとすればするほど結果が出せない経験は誰にもあると思います。何故そうなってしまうのか、就職活動に対する認知の特徴を明らかにすることでキャリア支援の方策につなげたいと思っています。

## 偶然が味方になった

大学院で行った就職活動ストレスの研究を現場に活かそうと活動を続けていました。自分のキャリアをどのように結実させたいのかを改めて考え、初職である教育の現場に戻りたいと思いました。そんな折、ご縁がありこの山梨大学で教員の道を再度歩めることとなり、クランボルツの「計画された偶発性」を実感しています。

この恵まれた山梨の地で積極的に色々なことに挑戦してください。その中で自らのアイデンティティを確立させ、将来幸せな職業人生を歩むためにも、充実した大学生活を送ってほしいと思います。

## 私のモットー

「実るほど頭を垂れる稻穂かな」：父親がつけてくれた「瑞穂」（みずみずしい稻穂）が名前です。今やみずみずしさを越えて黄金色の稻穂になっていますが、年齢を重ねても初心を忘れずますます謙虚でありたいと思っています。

## 私にとってのワークライフバランス



学生時代の友人やコンサルタント仲間と話をしたりすることで、新しい刺激を受けている。また、できれば昔からやってきた卓球のできる場所を探して体を動かしたいですね。

## ここが私のセンター



センターの業務と授業の中からテーマを探しています。平日夜は寝てしまい、移動中や休日に考えることが多いです。現場の課題についてあれこれ解決策を模索しています。いつか現場に還元できたらいいなあと。





## 大学院生紹介

大学院医工農学総合教育部 生命環境学専攻  
食物・ワイン科学コース1年

田中 悠二さん  
Tanaka, Yuji

学歴 大分県立大分雄城台高等学校卒業  
山梨大学生命環境学部生命工学科卒業  
山梨大学大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻  
食物・ワイン科学コース修士課程(1年)在籍中

山梨大学を選んだ理由は  
何ですか？

高校2年生の時に読んだ小泉武夫先生の著書「発酵食品礼賛」から発酵及び微生物に興味を持ち、微生物の代謝生産物から薬を開発することに憧れ、都内の大学を受験するが、失敗。関東近辺の大学で似たようなことを学べる大学を探している際に、山梨大学を見つけ、九州から出て関東に行きたいという気持ちと自分の学力で入れそうだという要素を満たしたので、山梨大学を選びました。

癒しを感じるもの



### 水耕栽培

3年前にアボカドの水耕栽培を知り、そこから今まで様々なものを栽培してきました。最近では枝豆の水耕栽培も行いました。意外と色々な植物が水だけで育つことに驚き、かつ日々の変化を観察するのが何よりの楽しみです。現在はローズマリーを栽培しています。



### ワイン

シェアハウスに住んでいた時のルームメイトの影響で、ワインを飲むようになり、ある時期は月に一度友人を集めて、みんなでワイン会をやっておりました。ワインはグラスに注いでから味が変わっていくのが面白くて、飲むたびに感動しています。

### 乳酸菌の研究 / 新しい乳酸菌を見つける！

私の研究は、自然界や発酵食品の中から運動性乳酸菌という水中を泳ぎ回ることできる特殊な乳酸菌を効率よく集める方法を開発し、その方法を用いて、新種の乳酸菌を見つけることです。この運動性乳酸菌は、まだ研究があまりされておらず、発見されている数も少ないため、未解明な部分が多いです。そのため、新しい運動性乳酸菌を見つけ、その未知の部分の解明に貢献し、新たな機能性食品や薬の開発につなげられるのではと考えています。また、新種を探すということで、宝探しと似た楽しみがあり、毎日ワクワクしながら実験を行っています。



大学院進学に  
興味を持っている  
学生へメッセージ

大学院は自分の学びたいことをより深く、心ゆくまで追求できる場所だと感じています。学科及びコースによる違いはありますが、学部生で研究を行える時間はあまり多くないです。なので、自分の学びたいことをもっと知りたい！4年生の1年間では時間が足りない！と思う方はぜひ院に進学することをおすすめします。

### 勉強以外に力を入れた活動

#### ボランティア活動

学部3,4年生の時に、甲府市中央にある「山梨初 学生が製作から運営までするお店 シェアスペース iiraj」というコミュニティースペースの運営をしておりました。地域のおじいちゃんから日本一周している人まで幅広い層が集まる場所で、様々な人と出会える楽しさに惹かれ活動しておりました。

### 将来就きたい職業や夢はなんですか？

私の夢は、いつ、どんなときでもお腹のトラブルで悩まない社会を実現することです。飲みすぎの次の日もお腹を下さず、ストレスでトイレを往復することもない。そんな社会を実現したいです。また、それを私たちの生活の一部である「食」を通して行いたいと考えており、将来は、ヨーグルトなどの乳酸菌を利用した機能性食品の開発に携わりたいと考えています。



### ここが私の研究スペース

研究室は、実験室が2つと植菌室があり、普段は、教員及び学生のデスクがある第一実験室で作業しています。微生物実験や培地の混合を行う際は、植菌室や第二実験室で実験しています。第一実験室は、中心にソファもあり、息抜きしながらメリハリをつけて研究に取り組めるようになっています。





# 男女共同参画推進室

Gender Equality Promotion Office

## ◆ 主な取り組みの紹介

### 両立可能な環境の整備 支える

#### ◆ キャリアアシスタント制度

ライフィイベント中の研究者へキャリアアシスタント（通称 CA）と称する、実験や論文検索などの研究活動を補助するセンターを派遣。

#### ◆ 産休・育休からの復帰支援制度

産後の特別休暇、および育児休業から職場復帰した研究者に対し、学会参加費や論文投稿費を助成。

#### ◆ 社会福祉法人 宮前保育園と連携した育児支援

宮前保育園の一時預かり事業、病児・病後児保育事業、休日保育事業と連携し、学内の育児支援を実施。ナシダイの教職員・学生なら誰でも特別料金にて利用可能。また、学内にて学会や研修会等を開催する際には、保育士の派遣も利用可能。



### 交流の場と情報の提供 集う

#### ◆ 交流スペースの設置

誰もが気軽に利用できる交流スペースを設置。研究者同士の情報交換や交流、ライフィイベントに関する情報の収集と交換の場として利用可能。また、定期的にランチ会を実施しており、教職員、学生問わず、幅広い交流ができる場を提供。さらに、交流の場では話しにくいライフィイベントや研究に関する内容については相談対応も実施。



次世代研究者の育成

### 育てる

#### ◆ 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞

女性研究者を顕彰することによりその研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的とする顕彰制度。

#### ◆ 全学共通教育科目「理系女性のキャリア形成」の実施

様々な講師によるオムニバス形式の講義。それぞれの人生哲学やキャリアの構築、ワークライフバランスなどを紹介することで、受講学生が自分の将来について本気で考える機会を提供（前期）。

#### ◆ ホームページやロールモデル集を通した先輩紹介

様々な分野で活躍する先輩方をホームページやロールモデル集で紹介。

#### ◆ キャリアアシスタント制度を通した研究職希望者の育成

「支える」でも紹介したキャリアアシスタントは、研究者の仕事を間近で見られるうえ、将来のライフィイベントにおける仕事の在り方を具体的にイメージするのに有効。研究職を志す学生におすすめ。



### 学内連携の強化 整える

#### ◆ 学内の人的ネットワークの強化による環境整備

学内に設置されている様々な支援室やセンター、委員会などのネットワークを強化し、ナシダイが「誰もが働きやすく、学びやすい環境」であり続けるための提案や取組を実施。

#### ◆ 意識改革&スキルアップのためのセミナー・講演会

学内の意識改革や研究者のスキルアップのために、各種セミナーや講演会を実施。



### ホームページ、随時更新中

当室ホームページでは、活動事業紹介のほか、ロールモデル紹介など各種コンテンツを掲載しています。

<http://www.conohana.yamanashi.ac.jp/>

QRコードはコチラ



# 健康管理センター

## ●こんな時に利用できます

ケガ	ステップ1 症状を聞きます	▶ 必要に応じて処置をします。	▶ 経過観察	または医療機関紹介
	どのような傷がかかるかを問診します。			
	病院紹介(紹介状作成など)や、症状によっては救急車を手配します。			
病気	ステップ1 症状を聞きます	▶ 体温測定、血圧測定。 内服薬を処方する場合もあります。	▶ 経過観察	または医療機関紹介
	どのような症状かを問診します。			
	病院紹介(紹介状作成など)や、症状によっては救急車を手配します。			
心(悩み・不安)	ステップ1 症状を聞きます	▶ 医師・臨床心理士に相談ができます。 (平成30年4月から臨床心理士は学生サポートセンターで相談を行います。)	▶ 医療機関紹介	
	問診票に記入してもらいます。			
	病院紹介(紹介状作成など)も行います。			
健康診断(学生・教職員)	ステップ1 日程掲示	▶ 必要な検査を実施します。	▶ 健診結果発送(web閲覧)	その他
	教職員・学生へ学内インターネットを使ってお知らせします。			
	平成30年4月から健康管理システムにより結果をご本人が閲覧することができます。			

健康管理センターは、山梨大学の学生および教職員の心身の健康増進を図ることを目的に業務を行っており、甲府と医学部の両キャンパスに設置されています。

- 利用は無料です
- <https://health.yamanashi.ac.jp/>



甲府キャンパス  
健康管理センター



医学部キャンパス  
健康管理センター

キャンパス探索

# ナシダイマップ～甲府キャンパス～



## ① キャリアセンター



A photograph showing several students in white lab coats working at a long table in a laboratory. They appear to be conducting an experiment or analysis. The room has fluorescent lighting and shelves in the background.



## 2 図書館



### ③ 子ども図書室



## ① 会計課 (授業料納入等窓口)



4 学生支援課



4 教務課



5 総合案内所



A portrait of a woman with dark hair, wearing a black blazer, sitting at a desk in an office setting.

6 國際企畫課



The logo for the International Business Center, featuring the text "国際企 Q INTERNATIONAL" and a stylized green and red graphic.

⑥ G-フィロス



G-Philos  
グローバル共創学習室

## キャンパス探索

# ナシダイマップ～医学部キャンパス～

① ヴァンフォーレ甲府



② 軟式テニス部



③ 大講堂



③ 大村智先生 記念モニュメント

④ 学務課



⑤ 空手道部



⑥ 医学部交響楽団



⑦ 看護学科教育研究棟



⑧ 図書館



⑨ どんぐり保育園



# 男女共同参画の 加速のための 山梨大学 学長行動宣言

平成27(2015)年9月30日  
国立大学法人山梨大学  
学長 島田 真路

山梨大学は、男女共同参画の加速を大学運営の緊急かつ重要な課題と位置づける。本学はこれまでにも男女共同参画を実践しうる優れた人材を育成し社会に送り出し続けることを旨とし、本学に集うすべての構成員が、その個性と能力を十分に発揮できる大学とするよう努めてきた。

第3期中期目標中期計画期間において、本学が担うべき社会的責任を果たし、さらなる飛躍を目指すため、「山梨大学憲章」に基づき、ここに3つの基本方針の下、今後5年間の行動計画として7項目を掲げる。

## 3つの基本方針

1. 国立大学法人である本学が果たすべき役割の重要性を自覚し、男女共同参画社会基本法の基本理念を深く理解し、その理念のもとで行動し、その成果を学内外に発信する。

2. 本学が男女共同参画社会に相応しい環境となるよう、就業や修学を両立できる環境を整備し、個人としてそれぞれの個性や能力を十分に発揮できる機会を確保するとともに、そのための意識啓発を行う。

3. 男女を問わず、我が国の将来を担う高度専門人材の育成に積極的に貢献するとともに、志願者の裾野を拡げる活動に取り組む。

## 7つの行動計画

1. 本学のすべての構成員が、年齢性別等を問わず、仕事や学業と生活との両立を図ることができるよう、両立を支援し、環境を整備する。また、妊娠・出産・子育て・介護と教育・研究活動との両立、ハラスメントや人間関係等の男女共同参画をめぐる諸問題の相談窓口を設置し、関連制度等の周知を進める。

2. 意思決定過程への女性の参画を推進する。平成28(2016)年4月から新たに女性役員を置くとともに、女性管理職比率を11%に引き上げる。「能力同等なら女性優先」の方針のもと、引き続き女性研究者を積極的に採用・養成し、平成32(2020)年までに、教授は12.5%に、准教授・講師は20%に増やすことを目指すとともに、学内および学会・社会のリーダーとして飛躍できるような支援・登用制度を整備する。

3. 国際的観点に基づいて学内の男女共同参画を推進し、優秀な人材を確保する。グローバルな研究・教育体制に相応しい、外国人研究者・留学生を対象とした様々な両立支援策を講じる。

4. 「地域の知の拠点」として地域の男女共同参画の取組への波及を図る。

県内の大学、行政機関、企業等との連携を進め、ウェブサイト等による地域への広報活動を積極的に行う。

5. 将来の学術研究を担う女性研究者の育成等に資するため、新たに「山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞」を創設し、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者又は研究チームを顕彰する。男女共同参画シンポジウムを毎年開催し、受賞者の表彰式や受賞講演を実施する。

6. 女子学生のみならず、卒業生あるいは修了生に対しても女性キャリア向上のための支援を継続する体制を整える。また男女共同参画推進のための関連科目を積極的に開講し、将来のキャリアを考えるワークショップ、キャリアガイダンス等を実施し、男女共同参画社会の推進力となる若手人材を育成する。さらに、女子中高生に対して、本学の取り組みを伝えるとともに、理工系の研究体験を提供するイベント等を毎年実施する。

7. 男女共同参画推進室の継続的な拡充整備を図り、男女共同参画活動の恒常的支援体制を構築する。男女共同参画推進本部において、大学全体及び学域ごとの男女共同参画の現状について毎年自己評価を行い、その結果を広く公表する。



「ナシダイ Researchers☆ Vol.5」を  
最後までご覧ください、どうもありがとうございました。  
Vol.5 という節目まで発行できましたこと、  
まずは今まで登場くださった研究者のみなさま、  
ご協力くださった職員、  
学生のみなさまに感謝申し上げます。

現在、日本では、さまざまな場面で「ダイバーシティ」や  
「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が語られ、  
働き方の見直しが進められています。  
社会が少しずつ変化する中、  
学生のみなさんには、少しでもたくさんの生き方や考え方につれ、  
自分の将来について考えてもらえればと思います。  
ぜひ男女共同参画推進室にも、お話しに来てください。

この冊子が少しでもみなさんの生き方を  
考えるきっかけになれば、幸いです。

平成 30 年 2 月

発 行：国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室  
〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37  
T E L : 055-220-8350 FAX : 055-220-8351  
E-mail : conohana@yamanashi.ac.jp  
U R L : <http://www.conohana.yamanashi.ac.jp/>  
印 刷：有限会社スタートアップ・コーポレーション  
協 力：山梨大学写真部

